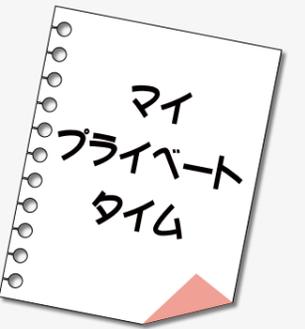


# 仕事における私の時間

ふかがわ  
深川市長(北海道) 山下貴史  
Takafumi Yamashita



## 深川の小さなかがり火

北海道のほぼ中央に位置する深川市は、人口2万3000人の農業を基幹産業とする地方都市です。四季のメリハリが豊かで、平年値による最高気温は8月の25.9℃、最低気温は2月の零下13.5℃、降雪の深さの合計は1029cmに達します。



深川市に群生するカタクリ

本に一本とされる真っ白なカタクリを見ることが出来ますので、ご関心のある方は是非一度足を運んでみてください。

北海道自治体クラウドサービスを通じて総合行政情報システムの利用を開始し、更新・運用に関わるトータルコストの低減を図っています。

一方、このような通信環境を多くの市民に利用してもらうため、IT講習会の開催にも力を入れています。私自身も日々インターネットに接続し、さまざまな情報を収集していますが、中でもブログは、深川市長に就任して以来、週1回のペースで書き込みを続けています。

その内容は、深川市内で行われた行事の様子や政治経済情勢に対する私の主張のほか、その時々感じたことなどを思



年間100万人集客の「道の駅」で深川産米「ふっくらんこ」をPRする筆者

## 海外赴任の思い出

私は下宿をしながら深川市内の高校に通い、東京大学法学部を経て、農林省(現在の農林水産省)に入省しました。

10年ほど農業行政に携わった後、外務省へ出向する機会を得て、ベルギーにある欧州連合日本政府代表部の書記官として赴任するため、数カ月間の外務研修プログラムに参加することになりました。外交の職務を遂行する上では、言語における微妙なニュアンスを読み取る力が必要とされることから、寝る間を惜しんで語学の習得に励みましたが、顧みずとあれほど勉強に打ち込んだのは後にも先にもこのときが最後だったと思います。余談になりますが、当時研修のために通っていた施設は、その後、東京都文京区に本部を置く拓殖大学の国際教育会館として利用されていますが、同大学の北海道短期大学は深川市で開校されており、私が現在深川市長を務めていることと重ね合わせますと不思議な繋がりを感じます。

さて、ベルギーでは、妻と子供3人を連れて赴任し、3年余りを過ごしました。貴重な機会でありましたので、時間の許す限り欧州各国を訪れ、それぞれの文化

のまま綴っており、私の趣味の一つになっています。

しかし、さすがに丸5年以上も続けていると記述すべきテーマ探しに苦労している今日このごろですが、多くの方から私のブログを毎週楽しみにしているとお言葉を励みにして、今後もブログの発信を続けていきたいと思っています。

(私のブログURL <http://www.t-yamashita.com/>)

## 美しい農村

深川市には6000haの水田が広がっています。緑溢れる田植えの時期と黄金色に輝く稲刈りの時期とは風景が一変します。私はこの色彩の移り変わりを見るのがとても好きで、時間を見つけては農地視察に出向いています。

もともと農村地域で生まれ育ち、仕事も農林水産省の職員でありましたので、農業の大切さに対する強い信念を持っています。衆議院議員に転身するきっかけとなったのも、役人として職務を続ける中で、中央と地方におけるさまざまな格差が拡大するのを目の当たりにして、「このままでは日本の農山漁村はますます衰退し、人々が住めない土地になる」との思いに突き動かされたからにはかなりません。

その後、北海道有数の米どころ深川市



女性に人気のシードル「りんごのぶちぶちワイン」

際業務を多く担当することになったのですが、そんな折、フランスのシャルトルを訪れた際、シードルとガレットという食文化に出会いました。りんごとそばの産地でもある深川市の市長に就任して真っ先にこの食文化を思い出し、日本版の「りんごのぶちぶちワイン」と「そばクレープ」の商品化を手掛けるなど、これまでに得た海外での経験や情報は市政運営上とても役立っています。

## 週一のブログ更新

深川市は、情報化の推進に向け取り組みを積極的に推進しています。光ブロードバンド環境については、国の事業を活用し、すでに全市エリアでサービスが提供されています。

また、今年1月には北海道内で初とな

の舵取り役となつてからは、これまでに培った知識や経験を生かした地域づくりを実践するため、新規就農者の育成や農地の保全等々に全力で取り組んでいます。おかげでお米の食味については、農業者と農協、行政が一体となって努力した結果、本州産ブランド米と同等以上にまでレベルアップしました。しかし、TPP交渉参加問題が生じた今、この美しい農村の将来にいさか不安を抱かずにはいられません。日本国の将来に禍根を残すことのないよう政府の適切な判断を望みたいと思います。

いずれにしても、今年開村120年、市制施行50年を迎える深川市を次の世代に引き継いでいくためには、基幹産業である農業とその関連産業の振興・発展が不可欠であると認識しています。今後地域農業の課題を見据えながら、日本一の米どころを目指して頑張りたいと思います。



豊作を祈りながら行っている水稲の種まき